

## 米村クラス

# 「日本臓器移植ネットワーク(JOT)のコミュニケーションストラ テジーを考える①」

(注・受講生の表現案に使用されている画像は基本的にネット上のフリーのものや AI 自分たちで撮影したのですが、もし肖像権などで問題あるものがございましたら sakane@npllc.jp までご連絡ください。)

### ◆日時

2025 年 8 月 25 日 (月) 19 時～21 時

### ◆出席者

モゴ G 面 安全地帯 トリ ままどおる 豚骨精神 づら 白湯 生徒 10 (男性 7 名、女性 3 名) + 米村

米村：今回の課題、前回までともまた全然違って難しい。今日みんなのストラテジーをパーツと見てという前に、ちょっとディスカッション時間を設けようかなと思っています。これ、豚骨精神の課題提案だよね？

豚骨精神：はい

米村：豚骨精神が出してくれたやつで、一応もう一回ざっと少し説明を。

## テーマ

### 日本臓器移植ネットワーク (JOT)

#### □ JOTとは

日本の臓器移植の調整機関として、臓器提供から移植までの橋渡しを担っている

- 臓器提供と移植の調整
- 普及啓発活動 (ポスター、LINEスタンプ、グリーンリボンキャンペーンなど)
- 若年層への教育支援
- 意思表示サイトの運営 (意思登録カードの発行)

#### □ 臓器移植の意思表示が難しい理由

- 臓器移植の話題のハードルが高い
  - ① 死を前提に考えることへの心理的負荷の高さ
  - ② 知識不足・誤解の多発
  - ③ 話題にしづらい文化的空気
  - ④ 死に対する宗教感の違い

- 臓器移植を考えるきっかけが少ない

ほとんどの人が臓器移植を考えるきっかけがマイナンバーカード・運転免許証を入手した際なのではないか

#### □ 課題としての提案理由

- JOTは臓器移植を「特別な誰かの話」から「自分ごと」にするための仕組みとコンテンツを、地道に展開している組織だから。
- 言葉でサービスと人との新しい関係性をつくれると思ったから。

**豚骨精神**：はい。JOT、日本臓器移植ネットワークという団体がありまして、そこで、書いてある通りなんですけど、臓器移植の調整機関として結構いろいろやっている団体があります。

何をやってるかって言ったら、上に4つちょこちょこ書いてあるやつなんですけど、臓器提供とか移植の調整、(臓器を)あげますって言った人と、(臓器を)欲しいですって言う人のコネクションをつなげたりとかっていうのをやったり。

あと、臓器が欲しいと言っている人は結構いるけど、あげてもいいですよって言う人はなかなか少ないので、(臓器が)欲しい人がいっぱいいますよっていう啓蒙活動をいろんなやり方でやってたりします。ポスターとかラインスタンプとか…グリーンリボンキャンペーンみたいなやつを結構やっています。

あと、臓器移植っていうところに対する理解度が浅いから、みんなあんまり参加してくれないな、みたいに考えているので、若年層への教育をしたり。それと、意思表示っていういろんなやり方があるんですけども、その運営をしたりしているっていう団体があります。

そこに対してなんですけど、今の日本は意思表示をあんまりやっていなくてですね、そこで何でそんなに日本人は意思表示をしてないのかなと考えた時に、ここは事実じゃなくて、私の調査とか私の考えなんですけど

ど、やっぱり臓器移植の話題自体のハードルがすごく高いと思っていて。大前提、臓器移植するってことは、死んでからの話なので、そもそも自分の死を考えること自体が重たいし、死んだあとのハードルが重いの、そのあとのことを考えるというのも、結構心理的負荷が高いのかな。心理的負荷が高いかなという状態になってると思います。

あと、初めに言ったみたいに若年層への教育支援しているものの、やっぱり知識がなかったりとか、誤解している人が多いから、「ちょっと分かんないし、意思表示なくていいか」みたいな状態が出ていたり。最終的に臓器移植するには、自分の意思と家族の合意が必要。合意っていうか、家族が「いいですよ」って言わなきゃいけないんですけど、やっぱりこの話を家族間で話題にするっていうのは結構重い。というか、日本人って例えば、欧米とかと比べるとあんまりディスカッションしないっていうふうに言われてるんですけど、さらにテーマが話題にしづらい文化的空気があるのかなって思っています。

あと宗教観ですね。日本人の宗教観って、西洋とか欧米とかとも違うから、ここもハードルの高さにつながっているのかなって思っています。あともう1個、そもそも臓器移植を考えるきっかけが、多分マイナンバーカードとか運休運転免許証とか、要は自分の証明書の裏とかに書くっていうのが大抵みんなのきっかけなのかなって思った時に、あまりにもそのきっかけが少ないっていうところが、意思表示をみんながあまりしてないというところ、意思表示が難しい理由になってるのかなって考えました。

最後は、課題として提示した理由としては、私もそうなんですけど、やっぱり臓器移植って、特別な誰かのお話だなと思っているんですけど、それを自分ごと化にするっていうのを考えるのは、課題として結構やりがいがあるなって思うのと、この団体って地道に活動をいろんなやり方でやっているにもかかわらず、こういう現状なので、クリエイティブの力で突破するには、やりがいのあるものなんじゃないかなと思って提案をしました。はい、以上です。

**米村**：今日みんなが出してくれた課題は、もう正直ね、レベルが結構バラバラ。これ難しい話だし、結構複雑じゃない、仕組みとかも。そのあたりのことを今回これをするようになったら、やっぱりそれなりにきちっと、どういうことなのかとか状況を理解したり、周辺の知見とかも、いろいろちゃんと調べた上で、そこでどういうふう考えていくべきか考えるということ。日常の知識だけで考えられるようなテーマじゃないと思うんだよね。そのあたりの努力が人によって全然違う。それがもう透けて見える。だからそんなのを横並びで、ストラテジーを全員発表してとやっていくのは不公平だと思う。

【米村スライド】

スタンスを見定める。

今日はまず、どこをどういうふうにかえるべきなのかということから、まずはきちっと見定めなきゃいけないと。よくおっさんがいろんなことを例える時に、野球の例えでしがちって話があって、俺もそれに便乗するようで嫌なんだけど、大谷ってバッターボックスに入った時に、バットでこう、ベースからの距離を測ってって、みんな知ってるよね…？

豚骨精神：知らない…。

米村：バッターボックスって、その両脇に四角く白線が書いてあって、去年までは普通にその白線に入っ  
て、その白線の一番この辺ってところに入っていたんだけど、実は白線の位置って、いろんな球場に  
よってちょっと違うらしいんだよね。大きさとかベースとの距離感…でも、ストライクゾーンっていうの  
は、ベースの幅で決まっているから、彼がバットを置いてベースの角から等距離のところ自分のつま先を

合わせて立つ。そうすると、どこの球場であっても、ストライクゾーンと自分の目線の関係が、共通になる。それが狂うと、同じストライクゾーンに来たベースとボールの関係は同じでも、自分の目線が違うことで、ストライクがボールに見えたり、ボールがストライクに見えたりっていう誤差が出てくるけど、それをなくするために始めたっていう。例えばの話が長くなったんだけど、今の何を言ってるか、豚骨精神、分かる？

**豚骨精神**：わかんないです。そういう事実があるんだなという…大谷がやってるということは分かりましたけど、それによってこのスタンスはこうやってバットはこう…それはめちゃくちゃ理解しました。

**米村**：その目線が決まると…

**豚骨精神**：はい。

**米村**：だから、どこを考えなきゃいけないのか？という目線をここにいるみんなで合わせたいわけ。

**豚骨精神**：分かりました！

**米村**：それは調べたこととか、知識とか、その広さと深さとかによって、考えてることとかがバラバラになっているので、少なくともそのベースをまず揃えて、それでどこを考えていっていかってということをディスカッションしてかからないと、そこがバラバラのままだどどこまで行っても答えに行きつかないような気がして。大谷のことは分かったのね。

**豚骨精神**：分かりました。

**米村**：その例えとの接点が分からなかったということだね。そういった意味で、これ白湯が結構いろいろ事前に調べて書いてくれてたやつ。これ結構大事なことも書いてあったりしたから、まずこれ説明してくれる？

**白湯**：分かりました。米村さんから先に情報としていただいたことから、なんで知識不足で誤解が多発しているんだろうとか、死に対する宗教観の違いがあるんだろうとか、難しい理由がちょっと私には分からなかったの、改めて調べてみたっていうのがこのメモになります。

# メモ

## ■日本で臓器移植が進まない理由

### ①日本文化面

- 死生観：「体は死後もそのまま残すべき」という考えが根強い  
火葬文化であっても「完全な体で送る」ということに価値を見出している人が多い
- 脳死 = 人の死への抵抗：法律上は「脳死は臓器提供の時のみ死とみなす」と定義しており、社会的な受容度が低い  
「本当に亡くなったのか」という納得が得にくい
- 家族同意の重視：本人の意思表示があっても、最終的に家族が拒否すると提供できない  
欧米では本人の意思が最優先されるが、日本では家族の同意が必須。結果的に家族が拒否するというケースが多い

### <日本独自文化の背景>

- ・身体観・死生観・葬送儀礼の伝統  
死後も「魂と身体がつながっている」というイメージが強く、遺体を大切に扱うことが故人を尊重することと結びついている  
(死を受け入れるまでの時間が長い傾向がある)
- ・家族中心文化  
「個人よりも家族」を重視する傾向が強く家族で意思を話し合うのが自然な流れとなっている  
本人の意思を尊重するよりも「遺された家族の気持ち」を優先することが多い。(家族が納得していないと医療不信や訴訟につながりやすい)

### ②制度的な要因

- 臓器移植法の制約
- 提供体制の未整備：病院体制や、移植コーディネーターの数が限られている

### ③社会的な要因

- 認知不足：JOTの存在、ドナーカード登録方法が知られていない
- 誤解・不信感：死の定義が曖昧で、社会全体で「脳死移植」に対する共通理解が不足している
- その他意見：子供や孫のためであればあげたいと思っていることが多い。

今回の臓器移植に関してなんとなく知ってるけど、多分進んでないんだなっていうのは、まず第一印象にあったんで、なんで日本で臓器移植が進まないんだろう？こういうネットワークがあるのに進まないんだろう？っていうのを深めていくと、大きく分けて3つですね。日本の文化面、先ほども言っていたけれど、海外と日本の違いみたいなところもありましたけど、まあ、日本の文化面という独特なところ。あとは日本の法律にかかる制度的な要因と、社会的な要因という3つがあるのかなと思っています。

日本の文化面みたいなところなんですけれども、死生観が日本は、身体は死後もそのまま残すべきみたいな考えが根強いかなと思っています。こうやって言語化すると、そこまで考えてないっていうのがあるなと思いつつ、なんとなくみんなそういう意識あるんじゃないかなと思っています。火葬文化っていうのはもちろんあるし、亡くなっちゃった人は、完全な身体で送りたいよね、みたいな感じの気持ちを持つてる人が多いんじゃないかなっていうのが、一番の要因なのかなっていうところが1つ目です。

あとは脳死っていうのが、私もこれを調べていて、分かりづらかったところがあるんですけど、ドラマとかを見てても脳死って結構出てくるとは思うんですが、「脳死 = 人の死」と定めることへの抵抗があるというような、今の状況です。法律上は、「脳死は臓器提供の時のみ死とみなす」と定義してあって、それを、社

会的な重要度が低い。で、「臓器提供の時のみ死とみなす」ということから本当に亡くなったのか？っていう納得がこう得にくい状況であるっていう。

米村：それだよ。呼吸なんちゃら装置でまだスーハーサーハー言ってるのに、もう脳は死んだんですから死んだんですよっていうことに対する抵抗っていうことだよ。

白湯：そうですね。

米村：でもなんか、ほどなく止まるとは書いてあるよね、脳死しちゃったら。

モゴ：止まるらしいんですよ。最終的に。

米村：だからその時間のタイムラグも、無くしてじゃないかという話だよ。最初のやつ、死生観のやつはさ、この中でそういう感覚がわかるっていう人いる？

モゴ：臓器移植って、いわゆるどこの臓器が、心臓、肺とか目玉とか、そういうのも言っちゃうと臓器として提供できる。いやあ目玉、自分のを出して他の人に移植するのはちょっとなあ…というのはありますね。

米村：それは、自分がいくら死んだからって、目玉引っ張り出されるのは嫌だっていう話なんじゃない？ここに書いてあるのってちょっと違うよね。文化として死んだ人の身体をそうやって分解するみたいなことは、よくないんじゃないかっていう文化の話だから、それと、自分事として、まあ家族のこともそうかもしれないけど、嫌だっていうこととはちょっと意味が違うよね。文化的にそれはよくわかるという人はこの中にどれくらいいるのかなっていう。

豚骨精神：私、尊厳破壊な感じがしますね。

米村：燃やすとしても。

豚骨精神：燃やすとしても、何か…。

米村：づらは？

づら：わかってと思えば分かると思ったんですけど。宗教とかによって、極楽浄土とかにいくまでに戦っていくとか、三途の川を乗り越えとか、そこに万全の状態を送り出しあげないと、この先が苦しむんじゃないか？とかはあるんじゃないかと思っちゃいますね。

米村：じゃあなんか、戦争で爆死とかした人大変じゃん

豚骨精神：だから心が痛む。

安全地帯：なんかドラマとかで見るとお化粧をしてはい、からみたいなのがありますよね。

豚骨精神：死後用のお化粧ですよ。

米村：でもそれはさ、見た目を綺麗にする。だから、臓器移植も綺麗に保護して、見た目は全然きれいな状態で整えて返しますと言ってるよね。

白湯：で、先にその下の日本独自文化の背景のところへ行っちゃうと、なんでこういう生観が生まれるんだろう？っていうところを深掘りしたのをちょっとカッコに入れたんですけど、身体観とか死生観、あと、葬送儀礼の伝統みたいなのが、やっぱりあるんだなっていうことがわかって、死後も魂と体がつながっているというイメージが、やっぱり日本の中で強いらしいっていうことと、遺体を大切に扱うことが、個人を尊重することと結びついているっていうような。なんか日本独自の感じがちょっとあるなというところがありました。

で、それも何でかっていうと、やっぱり、死を受け入れるまでの時間が長い傾向があるっていうのは、調べている間にあったので、カッコとして書かせていただきました。これがその背景にあるかなというところですよ。ちょっと上に行ってしまうんですけど、やっぱり家族同意の重視みたいところはあって、先ほどとも一緒に、本人の意思表示があっても、最終的に家族が拒否すると提供できないっていうのが今の現状である。進んでいる欧米とかでは、本人の意思が最優先されるんだけど、日本では家族の同意が必要で、結果的に家族が拒否してしまうケースが多いというところがある。その背景としては、個人よりも家族、例えば「ウチ」とかって言ったり、いろんな日本語とかにも出てくるようなところから、家族を重視する傾向が強くて、家族で意思を話し合うのが自然な流れとなっているみたいところが文化の背景としてあるのかなと思っています。亡くなっちゃった後も、本人の意思を尊重するよりも、今度は残された家族の気持ちを優先することが多くて、先ほどの葬儀の場でも、なるべく綺麗な形で送りましょう、みたいな形で、お棺の中に残していくとか、そういうお仕事をしたりとか。あとは家族が納得しないと、医療扶助とか、訴訟につながりやすいみたいところがあるのが、今の日本の現状なのかなというところですよ。

二番目の制度的な要因は、提供体制の未整備というところで、入院も海外とかと比べて、病院の体制とか移植コーディネーターの数が、まだまだ下げられてしまっているのかな、みたいところも調べていると出てきたことです。それも踏まえて、進んでいない全体的・社会的な要因としては、そもそもの認知不足。この

組織団体の存在とか、ドナーカード自体は知っているけど、その使い方を教えられていないとか、教育不足みたいなのところがあって。あとは誤解・不信感みたいなのところで、文化的にも法律的な死の定義が曖昧だったりとか、文化的な背景のところとか、社会全体で脳死・移植に対する共通理解が不足しているのかなというところでは。

あとは、周りにもこういう話をしたことがあるか？とか、ちょっと聞いてみたんですけど、「子供とか孫のためであれば、（臓器を）あげたいと思っているということは話し合ったことがある」と。でも、旦那さんとか奥さんのためにはどうかな…みたいなことはちょっと感覚があったり、あとは町内だったり、そういう場所で話し合ったことがあるよ、みたいなのところがありました。ちょっと黄色くしているのは、この辺だったらクリエイティブで解決できる可能性があるのかなという声を、マーキングしたところになります。

## メモ

### <戦略に落とし込むための推察>

- ・文化面から価値観を変えるアプローチ
- ・臓器移植の誤解・不信感を拭う
  - 不信感とは…医療への不信、公平性への疑念、組織の認知不足
- ・JOTの認知自体をあげる

⇒課題となっていること：情報がむずかしく理解されていない、開示されているデータが届いていない、実際に救われた人の声が届いていない

### <具体例への落とし込み>

- ポジティブな国民キャンペーン
  - 臓器を提供する＝社会に貢献する、命をつなぐ誇り …（現状）教える側も知識が不足していて、情報が回っていかない
- 教育と認知工場
  - 「脳死とは何か」を説明する …（現状）法律上の定義が曖昧で納得が得にくい
- 体験ストーリーの伝達
  - 移植を受けた人がどんな人生を歩んでいるかを伝える …（現状）24時間テレビのような施策？→組織への不信がある

戦略に落とし込むのに、私としては時間がかかるというか分からなかったもので、どういうクリエイティブだったら、自分が見るかなとかっていうところから逆流して考えてみたのが、二枚目の方になります。やっぱり文化面から価値観を変えるアプローチがありそうだなとか、臓器移植の誤解・不信感を拭う必要がありそうだなとか、あとはJOTの組織自体の認知を上げるみたいなのところかなと。ここはちょっとアイデアベースで考えてみました。それを考えた時に、今それが成り立っていないのは、先ほどもあった通り、一般の、普通に生きている中で知り得ない情報だったりとか、情報が難しく理解されてない、理解しようというステージに立たないとか、あとは組織自体もデータは開示されてるけども、お客さんに届いてないところがあるのかなと思っています。あとは、実際に救われた人の声が届いていても、1%だったり、3%だったり、

0.3%の人が救われているということがあっても、少数派でなかなか届いてないのかなということが今の課題なのではと思っています。

じゃあ具体的にどうするかみたいなのところを3つ挙げてみたんですけど、海外とかのキャンペーンの事例も参考にすると、ポジティブな国民的キャンペーンみたいなのところあるけれど、現状では教える側も、知識が不足していて、情報が回っていかないとか、あとは教育と認知の向上を実現するためには、元々ある法律上の定義が曖昧だから、教育に落とし込む時には、なかなか納得とかは得にくそうだなとか。体験ストーリーの伝達っていうのが一番近いかなと思ったんですけど、近い形で言うと24時間テレビのような施策になるのかなと思ったんですけど、今の状態では組織への不信があって、24時間テレビに募金しても、それってみんなちゃんと使われているの？みたいなのところがあるから、今は組織への不信を払拭していかないとダメなのかな、みたいなのところをイメージしてから進めたというところがあります。

## メモ

### ■海外状況

#### ①一番進んでいる国：スペイン

→世界の提供率 30~40人前後/人口100万人あたり

<特徴>

・法制度：脳死＝人の死を明確に定義

・オプトアウト方式・・・原則提供するが、拒否登録すれば提供しない

・移植コーディネーターを全国の病院に配置し、医療従事者が家族への説明やサポートを徹底

#### ②急激に進んで成功した国

→韓国

1999年に「臓器移植法」を制定し2000年代以降進んだ

移植希望者とドナー登録制度を整備

公的キャンペーンと教育で「脳死は死である」との理解を社会に浸透させた

→クロアチア

2000年代にスペインモデルを導入し、10年で移植大国に

国民健康保険市江戸を通史、移植費用を公的にカバーした

#### ③海外で失敗した事例

→ブラジル

世界初期の「全国民オプトアウト制度」を導入したが、準備不足で失敗した

<問題点>

・国民に制度が十分に周知されなかった

・「国に臓器を強制的に奪われるのでは」という不信感が広がった

・医療体制・倫理委員会の整備がおいつかなかった

→シンガポール

法的には強制力があるが、宗教的理由、文化的抵抗から実際の提供率は伸び悩み、制度だけでは移植数が増やせないことが明らかになった

**白湯：**それでも分からなかったもので、海外の状況も調べてみました。海外で進んでいる国と、最初は進んでなかったけれど急激に進んで成功した国と、海外で失敗した事例でということで、それぞれを調べてみました。一番進んでいる国はスペインのようです。人口100万人当たり30~40前後の人が臓器を提供しているってことなんですけど、その背景・特徴としては、法制度が「脳死＝人の死」と明確に定義されていて、「オプトアウト方式」というらしいんですけど、もうベースとして原則提供する。一方で拒否登録をすると提供しないというような方式を取っている。今、日本は逆ですね。

米村：何も知らないでぼーっとしてたら、OKということになるんだね。

白湯：そうですね。

米村：すごいね、それ。

白湯：本当にすごいなと思って。あとは、それぐらいしっかりというか、もう一般的に、原則提供になっていて、移植コーディネーターも全国の病院に配置されている。それで医療従事者からの家族への説明とかサポートも徹底されているっていうようなことで、結構制度的にもうベースが整っているという状況もあって、進んでるのかなというのがスペインです。

スペインはなんだか逆に行き過ぎちゃって参考にならないと思ったので、急激に進んで成功した国がとしては、韓国とクロアチアですね。韓国は2000年代以降に進んだ。法律を制定して、2000年以降に進んだというところなんですけれど、移植希望者とのドナー登録制度を整備して、公的キャンペーン、あと教育で、脳死は死であるという理解を社会に浸透させたっていうようなところなんです。これも戻ると、日本の文化みたいなのところだと、日本だとちょっと時間がかかるのかなと調べながら思います。あと、クロアチアは、進行しているスペインモデルを導入して、一気に広がったっていうようなところみたいです。

最後、海外で失敗した事例というところで、ブラジルはそのオプトアウト制度を導入したけれども、準備が不足して失敗したということで、制度が周知されてなかったとか、国に臓器を強制的に奪われるのでは…？とかいう不信感だったりとか、あとは医療体制倫理委員会の整備が追いつかなかったというところで、やっぱり組織・国への不信感っていうところが多かったのかなと。シンガポールは法的に強制力はあったけれども、やっぱり宗教的理由とか文化的な抵抗で提供率が伸び悩んだというようなところがあったので、日本も、どっちかっていうと不信感、クレーム、文化的なところから一気に進まなそうだなとかっていうようなところを、この辺で学んでからできる範囲、クリエイティブでできそうな範囲みたいなのところをちょっと見定めて、ストラテジーのところを考えてみました。

米村：この中でドナー登録している人、いる？。

安全地帯：意思表示はしました。

米村：それはいつどういうきっかけでやったの？

**安全地帯**：中学か高校ぐらいの時にはもう保険証の裏に○をしていました。一回、友人が小学生の時に父親を亡くして、その子と話した記憶で、その子は目だけは「提供しない」に○をしたってという話は今でもずっと覚えています。目はやっぱり天国に行ってもこう、（自分たちを）見ているので、だから目だけはしないって。10年以上前の話ですけど、それはすごく印象に残ってます。多分それがきっかけで。私もやったような記憶があります。

**米村**：俺も、この課題で免許証の裏を見て、「あ、確かに書いてあるわ」って。でも免許証を渡される時に、「ここにドナー登録のやつがあるので、選んで○をつけといてください」とかって言われた記憶ないんだよね。

**モゴ**：マイナンバーの時にちらっと言われた記憶はあるんです。それは強制ではもちろん無いので。

**米村**：マイナンバーというので言われた記憶…マイナンバーなんかもっと無いんだよね。

**モゴ**：説明を受けた気がして。あるなって気づいたのかもしれないですけど、少なくとも認知はしましたね。

**安全地帯**：私、免許センターではありましたね。意思表示隠せるシールみたいなものがあって。

**豚骨精神**：そうそう。

**安全地帯**：入り口、出口のところに置いてあって「取って行ってください」って。

**米村**：でも、教官がなんか「はい、それではここにいる人、今日は交付しますので」みたいな時に、そういうアナウンスとかは無いよね。

**安全地帯**：教官からの説明は無かった気がしますね…。

**米村**：多分それも自動的に、ポスターとか掲示板とかでアナウンス・案内があって…（安全地帯は）やっぱり友達のそういうことがあったからですね。

**安全地帯**：はい、それ結構、今でも印象に残っていますね。

**モゴ**：米さんが若い頃とか子供の頃って、臓器移植って、世の中の的にどういう印象だったんですか？タブーとか？

米村：申し訳ないけど、そんな変わらないよ。確かに、戦後日本が本当に貧しいときって、臓器売買みたいな、臓器移植というより臓器売買だよ。なんか、浮浪者とか捕まえてきて、臓器を採って、それを何か東南アジアだったり、そういう話は無くはなかったかもしれないけれど、自分がもう身近な話としてはないね。

モゴ：日本で1968年にやっているんですね。札幌医科大がやって。僕は1997年の時に小学生だったんですけど、97年は確か心臓移植をまたやるって言って、その時にやっぱり68年のことがニュースで、日本の歴史的には、札幌医科大の和田寿郎さんという人が手術をやったんだけど、83日で患者の人が亡くなってしまって。

米村：それは心臓移植でしょう。

モゴ：心臓移植です。

米村：でも、他の臓器は、もっと前からあったんじゃないか。まあ、俺も正確にわかってないけど、心臓はやっぱりすごいニュースになって、結局ダメでしたみたいなのもニュースになっていたけど。

モゴ：ずっとタブーになってたみたいなのが、やっぱり調べると改めて。医学界的にも30年黙殺、みたいな。でも、ちょっと判定とかが怪しかったようなのがあったみたいですね。その患者もその臓器提供者も和田先生の患者で、いやそれって本当に必要だったみたいなのところまであったから、それが国への不信感みたいな。和田事件はみんなが知ってるとかじゃないですけども、なんか怪しいんじゃないかなあ、やばいんじゃないかみたいなのは、この97年の時にもなんとなく本当にこれ大丈夫？みたいな空気がちょっとあったというか。

米村：自分の名誉のために事を急いだみたい。

モゴ：「やったんじゃないかみたい」のが、ドキュメンタリー番組でそういうのがあったのが、ちょっと記憶にあるんです。本当にこれはそうだったのか？まあ、ちょっと真実があるんですけども。

米村：白湯が、サイトを見たら書いてあることもあるけど、ここにこう、色々リサーチしてくれたこととかって、サイトを見ても分からなかったこともある。要は、確かにこう、膨大にいろんな要因があって、どこを考えるべきかっていうのがまず難しいなと。

## 現状

### ② 2021年度（R3年度）移植医療に関する世論調査

臓器提供の意思表示について、「意思表示をしている」（6.7%）、「意思表示したことを家族や親しい人に話している」（3.5%）と答えた人は合わせて10.2%でした。

健康保険証※や運転免許証の裏面に意思表示欄があることを知っている人は、それぞれ60%を超えており、マイナンバーカードも18.9%の人に認知されていることが分かりました。

家族が、脳死下または心臓が停止した死後における臓器提供の意思を表示していた場合、その意思を尊重すると答えた人は90.9%でした。一方で、家族が脳死下または心臓が停止した死後の臓器提供について意思を表示していなかった場合、臓器提供の承諾をすることを負担に感じる人は85.6%となりました。

また、家族や親しい人と臓器提供について話をしたことがないと答えた人は、56.2%でした。

今回の世論調査より、健康保険証や運転免許証、マイナンバーカード等で意思表示ができることは広く周知されていますが、一方で、臓器提供の意思表示や家族との対話の大切さについて一層の理解を進めることが必要であると捉えています。加えて、意思表示をはじめとした臓器提供や、臓器移植に関する全般的な理解を促すことが重要となります。

これは僕くんがどこかで見つけて出してくれたんだけど、2021年度の移植医療に関する世論調査で、特定の意思表示について、意思表示していたとした人は6.7%。ちょうどそのくらいかもしれない。この中での一人だと。家族に話をした人はさらにその3.5%。合わせて10.2%でしたとあるが、これを合わせると言うのがよく分からないんだが…健康保険証や運転免許書の裏面に意思表示欄があることを知っている人は60%を超えており…欄があることは確かに。でも俺、実はあんまり…あったような気もするけど、ちょっと…って。

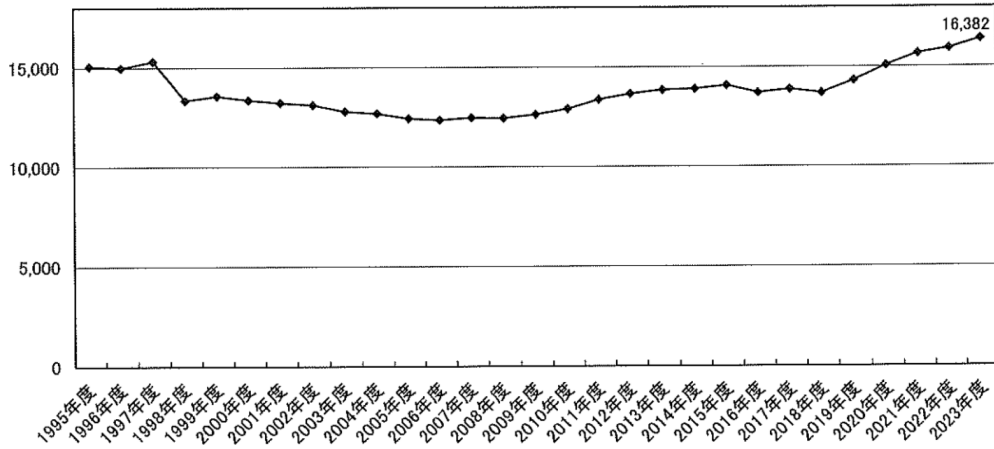
家族が、脳死下または心臓が停止した死後における臓器提供の意思を表示していた場合はその意思を尊重すると答えた人が90.9%で…だから一応家族の承認が必要とはいえ、本人が周知していたら、90%の確率で一応具体化するみたいなこと。で、家族が脳死下または心臓が停止した死後の臓器提供について意思を表示していなかった場合、臓器提供の承諾をすることを負担に感じる人は85.6%…これってこういうことあり得る？本人が意思表示してないけど、家族がいろいろ言ったら提供することがあるのかな？これもちょっとよく分かんなかった。

**モゴ**：これは改正臓器移植法というのが2010年に施行されて、その時に本人の意思によらず、15歳未満の子とかはそうですね。免許証を持ってない人のどうするのっていうので。

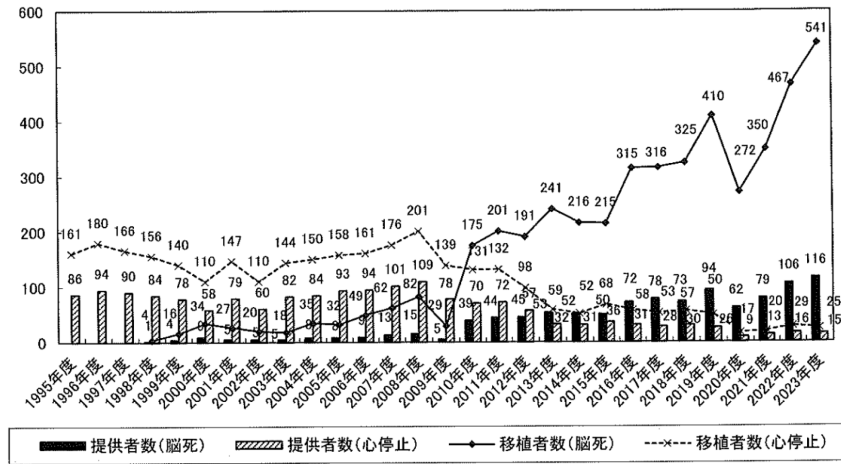
**米村**：他の人がOKって言ったらOKにするということ？

**モゴ**：家族がOKって言ったら提供できるということになったそうです。

<年度別臓器移植希望登録者数> \*各年度末集計



<年度別臓器提供者数・移植者数>



僕

[世論調査 | 日本臓器移植ネットワーク](#)

2023年に日本で亡くなった人は\*\*1,576,016人(確定値)\*\*です。厚生労働省「人口動態統計(令和5年・確定数)」より。[人口動態統計\(令和5年・確定数\).pdf](#)

参考までに、同年の臓器提供(ドナー)件数は**150件**(脳死下132件/心停止後18件)です。

[【独自】脳死疑い患者は年1万人、実際の「判定」は132人どまり...臓器提供者増やせる可能性：読売新聞](#)

米村：そういうことになったということか。マイナンバーカード等で、意思表示ができることは広く周知されています。まあ、広くって言っても、60%くらいか。一方で、臓器提供の意思表示や家族との対話の大切さについて一層の理解を進めることが必要であると捉えています、と。これ、年度別臓器提供希望登録者数が、ある意味横ばい、少しやんわり増えてきているという。提供者数（脳死）と提供者数（心停止）、移植者（脳死）と移植者数（心停止）と。移植者数の心停止は、どんどんうやばり減ってきていて。脳死っていうことでも死亡と認められるようになったとか、その辺、多分医学的なこれだけ死って判定する精度が上がってきたから、そっちが上がってきてってということ。

安全地帯：法改正が2010年。ちょうど上がってるんですね。

米村：あと提供者数も同じようにそういう風に上がってきていると。2023年に日本で亡くなった人は157万6016人。で、臓器提供件数は150件。

安全地帯：1万分の1…

$$\frac{150}{1,500,000}$$

131  
-----  
16,650

• 脳死下での臓器提供者数

• 心臓：:809人 肺：:627人 肝臓：:470人 腎臓：:14,721人 膵臓：:23人

米村： そうなんだよね。その死んだ人みんなに臓器提供をさせるという事はあり得ないにしても、150万人亡くなったうちの臓器提供に「いいよ」って、ドナー件数が150件か。だから実際に提供した人が150件、つまり1万分の1っていう。あともう1個、131っていうのは脳死下での臓器提供。下が、実際に登録をしてくれている人か。こういう数値、みたいなことなんだよね。

安全地帯： 下は待ってる人数っていうことですか？

米村： そう、待ってる人。1万6650人の人が待ってるけれど、臓器提供してくれる人が131人。

だら： 今600人とかじゃなかったでしたっけ？提供してくれる人が。

安全地帯： どこかにあった気がします。

だら： そのデータ。

米村： これなんかね、誰かのやつの数字。

モゴ： 多分年間ですかね、それ。上の百いくつ。

米村：年度じゃない。

モゴ：600というのは累計？ちょっとわからないです。

白湯：どこかに書いてありますよね。

だら：年間ですね。受けられるのは年間およそ600人。

米村：ん？年間600人。この数値はなんだろう？みんなから出ていて資料のどっかから引っ張ってきた。

安全地帯：あ、今の足したら131ですね。最後のグラフのもう一部前の、116+15、2023年度が。

米村：ああそうかそうか。

安全地帯：提供者、だから23年度が131人。で、600が24年？

だら：これ今最新のJOTのホームページで。

米村：じゃあ増えたということか。

安全地帯：移植者数と提供者数じゃないですか？提供者数は540行ってたから、

だら：年度違うんだよ、多分。

安全地帯：1人の体でいくつもあげられるじゃないですか。だからあげた人数は131人で、提供した部位の累計が600人。600人もの命が救われた。

**【米村スライド】**

今回のテーマは、まずどこを考えるべきか？

米村：そういうことだね。こういう状況をちょっと頭を入れて、まず、どこを考えるべきかということを考える必要があるなと思ったわけ。例えば白湯がいろいろ考えてくれた日本人の死生観とかさ。色々宗教的な、とか、自分ごとで、ある意味自分のインサイトとして考えたときに、「俺、分かっていたら登録するわ」と思っていたんだよね。

**【米村スライド】**

そのために「誰」に「何」をつたえるべき？

なんとなく、そういう話があるっていうのは薄ぼんやりとは知ってたけど、ちゃんと知らなかったというのが結構大きくて。まあ、確かにその友達のお父さんの目はっていうのは、死後の世界ではやっぱり目がないとっていう、そんなこと思わないけど、生理的になんか目を取られるのっていうのは嫌だっていう。それ胃袋を取られるのも一緒なんだけどさ、なんか目を取られるのが嫌だっていうのは分からない気もしない。ある意味どこを、どこに何を訴えるのがいいのか？すぐく、大きい広い範囲のことが課題としてある中の、どこだと思うか。

### 【だらのストラテジー】

だら

## コミュニケーションストラテジー（Z案）

### ●ターゲット

中高生の子を持つ親

### ●ターゲットインサイト

子供との会話が減ったことで、我が子が何を考え、どんな気持ちでいるのかわからず不安を感じている

### ●USP

臓器提供という命のあり方について真剣に向き合わざるを得ないテーマ

### ●プロポジション

臓器提供について話し合うことは子供の自立した考えや本心を知るきっかけになります。すぐに結論の出ないテーマだからこそ、互いを尊重し、共に問題に向き合う心が育まれます。

だら：僕はZ案の方に、中高生の子を持つ親ってターゲットを設定したんですね。白湯さんほどの調査はしてないんですけど、公式のページの手記を見て、もう1つ2つ見ただけでも泣いちゃって、全然先に進まなかったんですけど、それぐらい自分の子供とかと重ね合わせて考えたんですよ。実は僕は臓器提供について意思表示をしていなくて、それはするつもりがなかったんです。うちの母親と昔一回話をしたことがあってで、免許の欄に付いてるから、じゃあ〇をしようかなみたいな話をしたら、親に嫌がられたんですよ。なんで嫌がったのか、あんまりよく覚えてないんですけど。でも多分それこそ、目とか無くなっちゃったり

したら見えなくなっちゃって嫌だみたいな、そんな理由だったんですよ。だから僕は意思表示しないって決めたんですね。

米村：親を悲しませたくない？

だら：親を悲しませたくないというのが1つありました。よく昔から親が、親からもらった身体を傷つけるなんて、みたいな昭和の考えの人だから、そういうのは納得していたんですよ。でも、今回この課題に向き合って、手記を読んだときに、一番泣けたのは、泣けたって言い方が合っているか分からないですけど、自分の娘が亡くなったと。その子が意思表示に○をしてたんですけど、それを知らなかったんです。でも○をしてたから、そこをなんとか尊重してあげたいなと。それが分かった瞬間に、娘の人格はもう消えちゃってるけれど、娘の臓器はどこかで生き続けるかと思ったら、希望の光が見えた気がしたって書いてあったですね。それを見た瞬間に、もし自分の子供、息子がそうなったらどうしようかみたいに考えて、確かにそれ、ちょっとあるなと思ったんですよ。一方で、うちの母親みたいに嫌だって言う人もいるわけじゃないですか。なんか家族でまずは話すことが大事なんじゃないかなって思ったので、テーマのこれは家族とか、子供と一緒に考えるみたいなのが、まあ1つ軸になるんじゃないかなと思っています。

### 【安全地帯のストラテジー】

安全地帯

#### A案(意志表示をゴールに)

- ターゲット : 生命保険の契約(更新)を考えている人
- インサイト : 万が一のときの準備ができていない(十分だと感じていない)
- USP : 残された家族を迷わせない
- プロポジション : 臓器提供の意志表示は「家族の大きな心の支え」です。  
万が一のときにも心配いらずで安心して暮らせます。

**Z 案 ( 提供を念頭に )**

- ターゲット : 献血に定期的に協力している人
- インサイト : 自分にできる社会貢献は積極的にしたい  
( 自分の健康チェックを兼ねて )
- USP : 死後にも社会貢献ができる
- プロポジション : 臓器提供は「他者へのバトンリレー」です。  
健康の証を未来にも残せます。

**安全地帯 :** 私は A 案は意思表示っていうのをゴールにして、Z 案は提供するっていうところまでをゴールにしました。A 案は、意思表示をするか、しないかっていうのをまず書くっていうところがゴールで、z 案は「する」と「書く」っていうところをゴールにしていたんですが、この間、モゴさんとも話したんですけど、家族会議、結構やるみたいです。だらさん家は。

**米村 :** 安全地帯は？

**安全地帯 :** 安全地帯家は、やらないんです。今回をきっかけに会話したんですけど、あんまり普段からお題を設けて会話をするみたいな、しっかりとした場を作ったことがなかったので、まずはなんか自分で、それこそ免許センターとか保険証って、自分の手元にあるものだから、○をするって 1 人でできることだから、自分で気付いて、○を書くっていうところまでを、ゴールに据えていました。なので、その書いたことを家族にシェアするっていうところまでは、もう一歩先かなと思って設定をしました。

**米村 :** 逆に言うとさ、安全地帯だけじゃん、この中で言うと。だらは母親からそう言われたから、意志を持ってしてないでしょ？みんなどう？なんでしてないの？

**モゴ :** 僕は、あるのは知ってたんですね。それこそマイナンバーで。ただ、保留って扱いにしている。やっぱりこれを調べる時ほどは詳しくなかったんですけど、やっぱり家族と話さなきゃいけないんじゃないかっていうところが、なんとなくイメージとしてあって。

米村：家族って誰？

モゴ：自分の両親とか、親ですね。独身なんですよ。親と話さなきゃいけないとなった時に、この話どのタイミングでするんですか？とか、自分もそれをすごく切迫して話さなくてはいけないんじゃないかという気になる。例えば、これは何か欲しいとか何かをしたいとかではないから。そうなったときに自分の中での優先順位が上がらない。しかも上げたとしてもなかなか重い話になるんじゃないか、みたいな。割とださんの親の感覚に近いんじゃないかとか。

米村：でも本人がOKって言ったら90%の家族は認めるって言うのがあったよね。

モゴ：それもわからないですよ。うちは残りの10%かもしれない、みたいな。まさに「身体を傷つけるみたい」とか。心臓移植のニュースとかも見てたので、親も「臓器移植って長く生きられるのか？」みたいな話を当時していた記憶が、なきにしもあらずだったので。そういう記憶があるので、そうなったらその話をいつどうするかみたいなもので保留。

米村：じゃあ知ってるけど、保留してたってこと？

モゴ：そういうことです。

米村：白湯は？

白湯：目を背けてますよね。そのキーワードを聞いただけで「あ、いいや。関係ない！」みたいな感じで、深く知ろうともしていないから、余計に意思表示するかしないかまでも考えないし、それこそ話題を振られたら、「ああ、まあ、そういうことあるんだ、以上」で、逃げてたっていう言い方がしっくり来るかなと思います。

米村：でも、積極的に、本当に逃げてたわけじゃなくて後回しにしていたって言う感じ？

白湯：あっそうです。そうですね。後回し。そうです、「いいや、今」。

モゴ：多分感覚的に自分とも近い。

米村：トリは？

トリ：僕は、前の免許証で〇をして、免許証が変わって「あっ、してないなあ」という感じで、僕が知ってたのは、『リーガルハイ』とか『医龍』の漫画をめちゃ読んで、なんかこれはしたほうがいいなとサンプルに思って、僕は目も全然あげるしぐらの感じで、親が悲しいって言っても、それはそれっていう感じなので。僕はもう全部誰かのためになるんだったら、それでいいかなぐらいの感じ。そんなにも考えずに、ドラマとかいろいろ見て「いい、なんかこっちの方がいいな」と思って〇をして、免許が更新されて忘れてた。

米村：ままだおる

ままだおる：僕は臓器移植とかっていうような言葉は聞いたことがあったんですけども、全然自分事化してなかったで、それを意思表示しなきゃとか、それを話し合わなきゃとか、そういったことも全然なかったですし、そういう風なことも意識とか全然持ってなかったですし、環境とかもなかったですし。

米村：でも免許証を持っているんでしょ？

ままだおる：はい、免許証は今年の5月に取ったので。

豚骨精神：それまで持ってなかったんだ。

モゴ：あ、僕持ってないです、ちなみに。

米村：じゃあ逆に、その時にそういう情報触れてない？

ままだおる：さっきの話の時に思い出したんですけど、全然裏面の話とか全くなかったで、だからさっきの話の中で、ちょっとちらっと見たのは本当にあったんだ！とっていたって感じです。だから、そういう話もあの一。

G面：自分も運転免許証を持ってるんで、裏にそういう欄があるっていうのだけは知っていたので…ただ、白湯さんの話でもありましたけど、それを〇するっていう意志を持って、〇をするっていうことも結構後回しにしていた人間で。それをする前に、それについて詳しく知らないといけないことが、別に自分の周りに移植手術した人がいないんで、ぶっちゃけそういう場面に出くわさないだろうし、知らなくていいか、みたいな感じで。意思決定する前に後回しにしちゃってたなって思いました。

米村：俺もそれに近いな。づらは？

づら：私も、モゴさんと白湯さんの感覚に近くて、後回しにしちゃってるって感じなんですけど、今のお話を聞いて、免許証の裏、私（免許証）を持ってはいるんですけど、原付しか持っていないくて、まだ。

米村：原付でも書いてあるでしょう？

づら：多分書いてあります。でも自分がもし運転する人だったら、そこに○をすることによって、縁起が悪い予感とか、私ジंकスとか気にしちゃうタイプだから、それもちょっとあるかもと米さんの話を聞いてて思いました。

米村：何が縁起が悪いの？

豚骨精神：死んでもいい、みたいな？

づら：死ぬことを前提に運転するって言う…

だら：交通事故に遭いそうな感じがしちゃいますね。

豚骨精神：そう言うジंकスがあるんですか？

づら：無いですけど、私は何でも気にしちゃうから。なんか、死ぬんじゃないかって。

米村：みんな死ぬんだよ。

づら：さっきのゴールの話をしてたと思うんですけど、話変わったらごめんなさい。私、結構そういう重い話が十分苦手で。土日に万博に行ってきたんですけど。いのちがテーマじゃないですか。ドローンショーとか、ワクワクして観たらすごいわけ分からんいのちの舞台みたいなのかで。すごいワクワクしてたのに重い気分になって終わったなって思います。

米村：ミヤクミヤクするところ。

## 【づらのストラテジー】

### A案

#### ターゲット

15～18歳の若者

#### インサイト

反抗期、親に干渉されたくない  
自分だけでなにかを決めるのにわくわくする

#### USP

本人の意思が尊重される

#### プロポジション

15歳からできる臓器提供の意思表示はあなたが人生で最初にできる公的な選択です。  
あなたのこれからをあなたの意思で選択しましょう。

**づら**：私が目指したいゴールは、そうやって重い気分とか感動させにいつて共感させるというよりかは、どちらかといえばディズニーとかだと、超楽しかったから、明日も明後日もずっと生きられるようにもう一回また来れるように生きようみたいな、ご褒美のために頑張ろう的な、ちょっとポジティブな印象に持っていたかったです。

**米村**：そう言われたら免許証に○を付ける？

**づら**：ストーリー性による。

**米村**：それとこれとは別な感じですが。

**づら**：逆に「○をつけた方が事故に遭わないジンクスがあるんだよ」みたいに言われた方がつけようと思う。

**米村**：ハートとかつけりゃいいんじゃない？

**豚骨精神**：いやなんか変な感じ

**米村**：ズレ郎はなぜ○をつけない？

**ズレ郎**：小学校か中学の時に学校の授業であるんですよ。で、そこで授業で○をつけたのを覚えてるんですよ。

**安全地帯**：そこで○をする…！

**米村**：え、何に？

**モゴ**：小学生は意思表示できない。

**ズレ郎**：何かに。中学だから覚えてないんですけど、でも○をしたのは覚えてて。体験かもしれないです。○をしたのは覚えてるんですけど、それはやっぱり優先順位なので、下がってくるじゃないですか。だから普通に忘れてるし、今じゃあ○をしろって言われたときに、他にもいろんな考えで自分の意思決定をする中で、まあしない、それ大事じゃないかなって感覚に今なっています。

**豚骨精神**：私は学生の時に免許取って、その時はしたんですけど、社会人で更新して保留にしてるんです。理由としては、ちょっと話逸れるんですけど、私のお母さんが保健室の先生で、家にそういう命関係とかの本がいっぱいあって読んでたので、結構知ってたんですよ、臓器移植のこととか。で、免許取る前からもう「何でもくれてやる」みたいな。だって死後はそんなに私の意思と関係ないし、「欲しい人がいるならあげてあげるよ」みたいな感じで全部○にしてたんですけど、なんか社会人になって、人生が楽しくなってから、死んだ後にあげるのが怖くなっちゃって。学生の時、あまり楽しくなかったのかは分かんないけど、社会人になってから自我が芽生えたかわかんないけど、急に魂と肉体がリンクしたような感覚が始めて。そうしたら臓器をあげるの怖くなっちゃって。でもこれまでの知識とか、理性が「」あげた方がいいじゃん」って言ってて、なんかこう、感覚で「やだ、怖い」って言うてるから、今保留にしているという感じです。

**米村**：さて、きょう話してもらったような世の中のそういう状況を鑑みたときに、どこを考えるべきか。例えば白湯が書いてくれたみたいな、文化的な話とか宗教観とか、そういったものからくる、もう意思としてやらないっていう人の考えを曲げることはできないと思うんだよね。だから言うように、モゴもちらっと言っていたけれど、家族と話さなきゃみたいな、家族と話してくださいって話って、ここにいる大概の人は、その手前の話っていう感じがするんだよね。多分6割7割がその手前なんじゃないか。要は後回しにした

り、書き換えるの忘れてるとか。豚骨精神が言うみたいに、理性ではやった方がいいと思うんだけど、気分で。多分そういう感覚の人は世の中に一番多い。その人たちの気持ちに変化を与えるためにはどうしたらいいか、っていうことなんじゃないかって気がするよね。今みたいに「どこを考えるべきか？」ということを考えるっていうことを、まず最初に、やらないとダメというわけだよね、ストラテジーを考える時って。

**安全地帯**：後回し派の方に聞きたいんですけど、僕はトリさんと結構近くて、感覚的に「別に死んだらあげればいいじゃん」ぐらいの、軽いノリって言ったらアレですけど、結構気軽に○をしまってるんですが、後回しってというのは、そのなんかいろいろもっと深く考えないといけないよねっていうのがあるから、後回しにしてるってことですか？○する5秒10秒を惜しんでるわけじゃなくて、これを意思決定するには、もっといろんなこと考えないといけないよねっていう感じかな。

**モゴ**：今日思ってるなら、この場で○をつければいいよね、極端な話。

**安全地帯**：なるほど。何を考えないといけないんですかね？さっきや親と話さなきゃみたいな話がありましたけど、あと何を考えないといけないのか？

**米村**：ちなみにさ、献血この中でしたことある人はどのくらいいるの？

**モゴ**：多分ないという感じです。

**米村**：意外と少ないね。なんで献血したことないの？

**安全地帯**：弱いからです。

**豚骨精神**：ああ、できないから。

**安全地帯**：血を抜かれると倒れちゃう、貧血。

**米村**：それはしょうがない。

**白湯**：私はやろうとしたらできなかった気がします。一回できなかったからもうやらないと。なんか忘れちゃったけど、「えーやりたかったのに！」みたいな。

**モゴ**：理由…なんだろう

**米村**：なんかいろいろもらえるらしいよ。

だら：僕もそれ目当てで何回もやってます。

トリ：僕は普通に痛いから。シンプルに痛いことしたくないから。

ままだおる：同じです。注射が怖いから。

づら：私も一緒。見えにくくていつもブスブス刺されるから。

豚骨精神：血管見えづらいタイプ？

づら：そうです。

米村：だって、献血とかだったら、採血はするじゃん、健康診断の時とか。

ままだおる：1年に一回だけにしてくれって感じですね。

トリ：あの採血の時に、もう1リットル摂っていいですか？って言われたら、もう全然いいです。

豚骨精神：なるほどね。

米村：こっちはどう？献血。

豚骨精神：私はしたので。

ズレ郎：やろうとした時に、それこそハードルがあってできなくて、もういいやってなって。覚えてないですけど、「やります」って言った時に、「いや、なんかこういう条件でできないんですよ」って言われて、それ以来「いいや」ってなってる。

G面：自分は心理的に血を抜かれるのがあまり好きじゃない。血を抜かれてまでハーゲンダッツのアイス食いたいですか？っていう。

モゴ：300円です

G面：魅力的なインセンティブがあれば喜んで差し出すかもしれません。

モゴ：何があったらいけます？僕、インセンティブであまり引っ掛からない。感覚的にはG面と一緒に。

G面：いや、どうなんですかね？具体的にって言われるとパツとは出てこないんですけど。

づら：一日休みがもらえるとか？

G面：そういうのはちょっといいですね。

モゴ：献血休暇。あった方がいいかもしれない。

G面：自分は痛いとかはまだ大丈夫なんで。魅力的なインセンティブがあればいいのかもしれない。

米村：つまり、献血とこれとはちょっと違うよね。

だら：そこはちょっと違うよね、という話になりました。

### 【安全地帯のストラテジー】

安全地帯

#### Z案（提供を念頭に）

- ターゲット : 献血に定期的に協力している人
- インサイト : 自分にできる社会貢献は積極的にしたい  
(自分の健康チェックを兼ねて)
- USP : 死後にも社会貢献ができる
- プロポジション : 臓器提供は「他者へのバトンリレー」です。  
健康の証を未来にも残せます。

安全地帯：僕はZ案で「献血をした人したことがある人」みたいなの持ってきたんですけど。献血も、だらさんみたいにインセンティブ欲しさでやってるタイプと、あとは社会貢献したいみたいなタイプとがいて、ただ今回Z案を考える上で、献血をしているんだけど、社会貢献じゃなくて、インセンティブ欲しさの人が、臓器提供の方は意思表示をしていない人っていうことを考えた時には・・・

だらさんみたいにインセンティブ欲しさでやってるんじゃないくて、もっと社会貢献をしたいっていう人が、自分の健康チェックみたいなのも兼ねてやってるっていう人が多いみたいだったので、死後にも社会貢献ができるよっていう。献血は生きてる時にしかできないけど、死んだ後にも貢献できるよっていうところが、献血と臓器提供の違いとしての USP だなと思ったので、他者へのバトンリレーですよっていう。で、健康な証しっていう、自分の身体がいい状態じゃないと他人にあげることはできないので、健康な証しっていうのを未来にも残せますよ、つなげますよっていうようなプロポジションにすれば、献血との明確な違いになるのかなっていうふうに考えて、Z 案を持ってきました。

米村：健康な証しって、何？

安全地帯：今回は提供するっていうのを念頭に置いているので、意思表示っていうのは前提なんですね。ただ、意思表示をしていても、自分の臓器が悪かったら、ドナー提供を相手が受け入れてくれないから、自分の身体、いろんな臓器も健康である。で、それをあげて未来にバトンタッチできたってことは、つまり自分も健康に生きて、生を全うして死んだっていうところが、証明になるっていうふうに思って。それを残せるよと。

米村：あなたは亡くなりましたけど、あなたの肺は健康でしたよってこと？

安全地帯：そうですね…。

豚骨精神：健康的に死ぬの嫌だな。

米村：それ、嬉しいかな？

豚骨精神：ぼちぼちに悪くなってから死にたい。使い切ってから死にたい。

米村：ちょっとみんなのやつを見て思ったのは、ストラテジーこれで5月から4ヶ月ぐらいやってるじゃない。なんとなくそれっぽいことを書いている感じがあるんだけど、本当にそう？って、やっぱり自分で一回書いたあとに考えなきゃ。確かにバトンリレー、うまくまとまってる感じはするけれど、他者にバトンリレーしたい気持ちってどれだけあるんだろう？

豚骨精神：何で献血はするか？みたいな話をされたんですか？

米村：いや献血と臓器移植って同じ文脈で考えるようなものなのか？全然違うのか？俺、献血はもっとみんなやっているとあったんだよね。臓器提供は圧倒的に少ないことは分かったの。でも献血も少なかったから。

だら：献血との大きな違いって、献血は行為そのものがめっちゃめんどくさいじゃないですか。わざわざその場所に行ってやんなきゃなんないし、血を抜かれるとかって、痛いとかって、いろんなリスクがありますよね。でも、意思表示ってすぐできるじゃないですか。本当にこの場で。でもみんなしないんですよ。そこにすごい大きなヒントがあるような気がして。だから僕は一緒に住んでいる人にこの間聞いたんですけど、「もし親から臓器移植について急に話を振られたりしたら、対応する？そういう話になった時に」って言ったら、「なんか嫌だけど、まあ一応話聞く」みたいなそんな感じの答えでしたね。

安全地帯：「びっくりしちゃう」のほうが先か。なんか死が近いのかなと勘繰っちゃう。

豚骨精神：終活してるのかな？と。

だら：そうそう。僕が思ったのは親からとか、たとえ反抗期の子供であったとしても、真面目なテーマの話振られたら答えるのかなと思ってます。僕は下の子以外に上の子がいて、もう上の子は大学生です。間に女の子がいて、それは前の奥さんの連れ子なんですけど。前の家、離婚する前は結構家族会議とか、真面目な話みたいなこととか、よくやっていた。それこそ当然思春期みたいな時期があるんですけど、それでもやっぱり真面目な話だと聞いてくれるんですよ。ふざけんなってうか、向き合ってくれる。それって、皆さん感覚としてどうなのかなと思って。もしみんなも親から言われたら、まあ向き合わざるを得ないよねってなるんだしたら、親をターゲットにしていった方がいいのかなと思ってZ案を作ったところになります。

豚骨精神：今の話を聞いて、確かに家族会議が真剣な場合は思春期だろうが反抗期だろうが聞くと、臓器提供の話が、家族会議するに足りうる話題なのか？って思って。急にどうしたん？とか。例えば「お母さん、実は癌で、もうあと余命が数カ月なんだよ」みたいな。その話が来て、大ショック受けるけど、あ、だからこの場はすごい真剣な場なんだ、と。その話題の一環として、つまり「こういうこと残してこう思うよ」の話の一環として、臓器移植も「お母さん残っている内臓が良ければするつもりだよ」って、その話題の一環としてだったら受け入れるんですけど、「今日の家族会議は臓器移植です」。これがメインだったら「おう、どうした!？」みたいな。「今日はちょっとギャグ回、とまではいかないけど、家族会議が軽めなのかな？」みたいにちょっと思うんじゃないかって思います。

米村：ズレ郎の自分の意思表示のっていうのはZ案だけ？A案だけ？

ズレ郎：ああ、それはA案です。

**【ズレ郎のストラテジー】**

**ズレ郎\_A案**

**ターゲット：新成人を迎える人たち**

**インサイト：成人になるけれど実感が湧かない。このタイミングで、自分の意思で決めた大人になることを感じる小さなアクションを起こしたい。**

**USP：自分のことを自分で決めて、社会や誰かに貢献する体験を大きなリスクをとることなく、意思表示だけで行える。**

**プロポジション：自分で決めたことで社会や誰かに貢献する、大人の一步を踏み出して少し自信を得る。**

安全地帯：これって志望校を決めるみたいなの。そういうものの延長線上に臓器の提供の是非を問うみたいなの？

ズレ郎：いや、志望校はまだ親の影響とか受けてきそうなのという気もするなという。これはどちらかというと成人になる、大人の仲間入りをするっていうタイミングで、親からこう言われると。そうじゃなくて、まあ、親からもらった身体だけど、一応自分の身体として、自分のことを自分で決めて、誰かに貢献したいという。その一番ハードル低い挑戦機会に。

安全地帯：じゃあ選挙の方に近い？

ズレ郎：まあ選挙に近い、近そうかな。そう、近い。

米村：この年までは親の子どもだったんだけど、ここからもう自分の人生が始まる、みたいなの。

ズレ郎：その切れ目というか、いいタイミングなのかなっていうところで、こうしたっていう感じですね。

安全地帯：よく分かった。なるほど。

モゴ：トリ君が漫画とか読んで「これはやるべきだ」と思った時は、○を付けたあと何かこういう気持ちはあったの？誰かに自分の意思表示をして、年齢はいくつにしても。トリ君に対してはすげえ啓発が成功してるじゃないですか。多分 JOT からしたら理想の、若者向けのコンテンツで、医療漫画を見てやっぱり僕もって○をしましたみたいな。すごいいいケースだなと思っちゃって。やっぱりこういう気持ちって芽生えたの？

トリ：うーん

米村：そこもね、それほど別に「よっしゃ、これから自分のことは自分で決める」っていうほどでもない。

トリ：そこまでは考えてないですね。

モゴ：別の何か？

トリ：この話は「ああ、こうあるべきだな」と思ったっていう感じですかね。多分その時系列はあるんです、何か。

米村：逆に言うとさ、その漫画でさ、何が書いてあったからそう思ったの？

トリ：『医龍』の漫画をひと通り全部、たまたま読んでたのと、『リーガルハイ』のどこかの回で、死んじゃった時に、めっちゃ狂った医者というか、医者の人と移植、医療過誤みたいなことを言っている、医者は一人一人の患者に向き合ってるというよりも、業界の進歩のために、めちゃくちゃいろんな治験とかをやっているが、その治験で子供が死んじゃったみたいな感じで、お母さんが訴訟を起こして、医者は、そのお母さんのことを思って治験したというよりは、業界の発展のために治というか、いろいろ手術とか難しいものをやっている、みたいな話があつて。例えばそんなに癌を治せる病気にするために、すごく頑張ってる人達がいるってことを考えた時に、自分の最後、死んだ身体がそこに少しでも貢献できる可能性があるのであれば、僕はそこに投票するというか、そこに賛同するなっていうので、それが結構深くドラマで刻まれていて、『医龍』とかのドラマも見ていて。で、免許証をもらった時とかにどっかで「あ、あるじゃん」ってなって、パピパって速攻で○をしたみたいな感じでしたね。

米村：俺、現状の数字が、結構、衝撃的だったんだよね。「全然足りてねえじゃん」って。後回し、俺も後回しみたいなもんなんだけど、よく心臓移植したいけど、アメリカでしかできないから募金してくださいみ

たいな話ってあったりするじゃないですか。それって日本の法律的にできないから海外にどうこうって話だと思っていたけれど、これを見ると国内でできるよね。色々なことで、待っている人がこんなにいる、提供これだけしかないって、自分事だと考えるとさ、もう宝くじみたいな話に近いじゃない。それを知っていたら後回しにしなかったかもっていう気が。だからそういう話もあれば、だらみたいに家族で～みたいな、それは世の中の人間がみんなだらみたいな、人間だったり家族だったら、それはマスの動かし方としてはあると思うんだよね。ただストラテジーって正解はひとつじゃないって言っているのはそこで、今日のみんなの○をつけている人の少なさと、つけてない人の理由・感情を鑑みて、その実態を見たときに、やっぱりどうアプローチすべきかっていう。それがスタンスという話になっていくかなと。どこの誰に何を伝えるべきかって。さっきも言ったけれど、意志を持ってやらないって決めている人の意志は動かせるとは思わない。動かせと言えるようなものじゃない。

**豚骨精神**：だらさんに質問なんですけど、さっきお母様に否定的な反応をされたから、意思表示をしていないでしたっけ？否定の意思表示もしてないですよ？

**だら**：はい、そういうことですね。書いてはいないってことですね。

**豚骨精神**：ですよ。話を聞いてて、「お母様が嫌がってる。だから意思表示をしてないんです」って聞いたときに変だなって思ったのが、お母さんが嫌がった。だから「いいえ」ですだったら話的に分かるなと思ったけど、そこで「意思表示をしていない」が、私の中ではあまりつながらなかったんですよ。

**米村**：「いいえ」と「意思表示しない」はイコールじゃなかったの？

**安全地帯**：いいえっていうのも確かにあるんですけど…

**だら**：僕は親の気持ちはわかったから、「はい」にはしなかった。だけど「いいえ」にするのも違うかなっていう気持ちはその当時あったからですね。なんかちょっと余白というか、自分の中で最終的な決定を持っておきたかった。

**米村**：あれ、意味合いとしては違うの？「いいえ」と○をつけるのとは。

**だら**：何もつけないと死後に家族が「使っていいです」ってなっちゃうと、使えちゃうっていう。法律が改正になってできているんです。

**米村**：それじゃあ「いいえ」を意思表示すると、いくら家族が「どうぞ、どうぞ」って言っても…

だら：使えない。

米村：あ、そういうことか。

モゴ：「オプトイン制」だけ？「オプトアウト」か。4割ぐらいいるそうです。だらさんみたいな意思表示をしていない人」は。

米村：あと、俺が思ったのは家族優先みたいなのあるじゃない？

だら：提供される側ですよ。

米村：あれ、恋人とかだとダメなんだよね。親族とかじゃないと。

豚骨精神：戸籍上の親族とかじゃないと。

だら：米さんに質問なんですけど、マスでって考えたときに、今日も話を聞いて「知っているけど、後回しにしている人」が多い。ここで逆に知らない人は1人もいなかったじゃないですか。ということは、ターゲットは「知っているけど」みたいなのは戦略的にありなんですか？この話があるか分からないですけど、例えばAという商品があった時に、Aという商品を欲しい人とか、Aという商品を潜在的に欲しい人みたいなのは、ターゲットとしては駄目だよっていうことをだっちゃんのクラスで言われて…

米村：それは放っておけばいいターゲットってやつだよ。

だら：そうですね。でも、この臓器移植に関しては「知っているし、知っているけどやらない人」がいるじゃないですか。そしてここにいる全員がそうだった。ということは、「知っているけど、後回しにしてる人」みたいな設定はありなのか？という。

米村：ありだよ。

だら：であれば、それが一番広い、誰という部分ではマスなんじゃないか？と思うんですけど、どうですかね皆さん？

モゴ：今の欲しい人っていうのは放っておけとかさ、黙っていても買うでしょうということだから、広告する必要あるの？ってこと。「知っているけど、やらない人」っていうのは（意思表示を）やってないじゃないですか。

米村：それは意味が違うよね。

モゴ：僕もウィルキンソン知っているけど、知らないわけじゃないけど、でも広告を打つのはその差だと思う。

だら：「知っているけど、なんか重たいと思っていて、後回しにしちゃってるみたいな人」はターゲットだったかっていうと、そうですね。

米村：じゃあなんで後回しにしているのか？ってということだよな。

だら：そうですね。

モゴ：知っているけど欲しいは違うよね。臓器移植の欄に○をつけたい人、それは放っておける話だよな。だっちゃんの話だとそうなるよね。

米村：あと、「しません」って言ってる人も今回は…

だら：省くということですね。

安全地帯：明確に後回しと言ってたのが、白湯さんとG面。二人は後回しと言ってたので、そこが結構気になる。

モゴ：僕も実質的には二人と同じ。後回しにしていますという感覚。

だら：それで言うと僕もそう。

米村：あと、トリももう、免許証を書き換えるときに忘れていたということは後回しにしているようなものだよな。

トリ：そうですね。

米村：インスパイアされたときの感動を忘れてくると、もうあとになって書き換ええない。だからやっぱり、結構ほとんどそうなんだよね。

豚骨精神：でも米さんとトリさんは、例えば免許証の更新のところで、「裏にこういうことがあるから、お手すきの時に書いておいてください」みたいなアナウンスがあったら、やりました？

トリ：やってみましたよ。

豚骨精神：米さんはさっき「俺、知らなかった」みたいなことを仰っていたので。そこのアナウンスあったらやる方たちとそれ聞いても「あ、ちょっとあとで」という人たちがいるってことですよ。

米村：いや、でもアナウンスを聞いたから普通にやるとは限らないと思うよ。

豚骨精神：それはそうですね。

米村：何を知ったら「やろう！」ということだよ。

安全地帯：その、「何を知ったら」っていうのは、「免許証の裏に書く場所がありますよ」という場所の話とか、あるいは「自分の意思を表明しないと、家族がOKって言ったら、提供されちゃうかもしれませんよ」みたいな、そういうルールみたいなところなのかっていうことですか？

米村：そのレベルになっていくと、一番最初の白湯の整理で言うところの、とにかく認知されてないかっていう課題があったじゃない。じゃあ「認知させればいいじゃん」という解決方法ということだったりすると、それが答えという言い方ではなくて、じゃあどう認知させるのか？ということを考えていかないといけない。

## 【づらのストラテジー】

### Z案

#### ターゲット

40代～独身、子どもがいない人

#### インサイト

結婚していない、子どもを作らない選択をしたが、自分の生きた証を後世に残したい。

#### USP

自分が死んでしまったあとでも、臓器が誰かのなかで生き続ける

#### プロポジション

臓器提供の意思表示で  
あなたが亡くなった後も、あなたのことを想ってくれる人を増やしませんか？

米村：これもさっき誰か言ってたのと近いかな？誰かの中で生き続ける、みたいな。

安全地帯：僕のやつですね。近いですね。

米村：これは親の気持ちになった方があるかもね。自分の可愛い子供…なんかそういうドラマか映画もがあったような気がするな。

モゴ：手記はまさにそうですね。だらちゃんがさっき言っていた手記の話。

米村：いや、そうなんだけど、ドラマか映画で、自分の子供が亡くなっても…

モゴ：昔、堂本剛と広末涼子が出ていたドラマがあって、家族で見ていたので覚えてるんですけど、最後堂本剛が交通事故で跳ねられて、広末涼子を好きだったんだけど、広末涼子が心臓病を抱えていたので、心臓

米村：今の後回しにしている人が多いっていう感覚、さっきのだらの話で「たしかにそういうのもあるよね」って言ったけれど、後回しにしてる人が多いっていう時に「でも自分が死んだあとも、君の心臓は誰かの中で生き続けるんだよ」って言われたら、「あっ！じゃあ後回ししないで…」と心が動くか？そこはかみ合いがちよっと違う。

だら：正直、死んだ後のことはあんまり…「死んだ後こうなります」ってベネフィットを提示されても多分動かない。そこに「あなただと思ってくれる人」とか、命のバトンとかって言われても、僕は多分、あんまりそこには響かない。だけど、「いま目の前に苦しんでる人がいる」とか、「苦しんでいる人が待ってます」みたいに言われたら、今すぐには自分は役に立たないけど、何かしてあげたいなって気持ちはある。

米村：だから、それに類する話がさっきも全然足りてない。あの分子から分母を引いた人の数だけ、手遅れで亡くなってっているっていうことでしょうか？

だら：そういう方もいらっしゃる。

米村：あと、USP にいろんな領域のことを書いてる人が結構いたんだけど、今回って「JOT」が商品名からね。つまり USP っていうのは「JOT とは？」っていう、そのポジションをきちんと書いていない人が結構いたりもしたから。

安全地帯：臓器提供の USP じゃなくて JOT の USP？

米村：そう。でも臓器提供ネットワークは日本で JOT だけだから。競合他社もないから。

安全地帯：じゃあ何と比べるかっていうことですか？さっきの献血じゃないですけど、献血と臓器っていうふうに並べるのか？

米村：いや、競合みたいな考え方をする必要はない。その同じジャンルでね。でも、もしかしたら後回しにしている？何を優先しているのか？みたいなことはちょっと考えてみる余地はあるかもしれない。

ズレ郎：JOT の USP って何ですか？よく分からないっていうことですか？

米村：USP というか、USP をベースに商品規定ワードを考えるというのは、「ひと言で言うと、こういうものである」っていうこと。前回の find で言うと「find のサービスというのは、こういうものである」ということ。要はそのターゲットにとって一番大事な、結局ユニークな、「ターゲットにとってユニークです」っていうことは何かということを出したものを軸にして、そのブランドなり、サービスなりを規定する言葉っていうことだね。

ズレ郎：ただ、JOT は啓発活動を行っているのがメインなだけじゃないですか。それは USP になるのか…？

米村：「JOT って何？」って聞かれたときに、一言で言うとどういうもの／存在であるっていうこと。それがユニークっていうことだと思う。

モゴ：「JOT だからこそ出せる啓発」みたいなのはちらっと考えたんです。結局そうしなかったですけど。学校の先生が言ってもいいし、親が言ってもいい中で、JOT が言えることってなんだろう？みたいなことは考えていた。ただ、言うことと違って、普通に JOT のポジションで考えちゃったら、働く場所としての JOT とかだったら分かるけど設定しづらいよね。

米村：JOT の存在意義だよな。

モゴ：何のためにこの人たちは取り組みをしているのか…？

だら：一応ホームページに基本理念とかあるじゃないですか。唯一の橋渡し役、日本唯一のっていうのは、そのまま USP になりそうな気がしちゃうんですけど、それはもうちょっと変えた方がいいんですか？

米村：それが一番、今回のターゲットに対する「この部分が一番大事」っていうところで整理すれば、それでもいいと思う。

モゴ：彼らだから、JOT だから言えることって解釈したんですが、そういう感じでもいいってことですか？

米村：JOT の存在を JOT たらしめているものは何かっていうこと。もちろん、いろんな競合商品があったりする商品のことの USP とか、機能を言うことの USP みたいな考え方ともちよっと違うんだけど。

だら：だからその Why? の部分ですよな。

ズレ郎：臓器移植の USP を言うことと、JOT の USP を言うことはどう違うんですか？臓器移植を唯一扱っているのが JOT だとしたら、臓器移植自体の USP と JOT の USP が重なってくるのかなと。

米村：重なるよ。完全には一致しないけど、そういうことを提供している唯一の日本の組織っていうことでしょ。それがつくだけだけだとは思うけど。

モゴ：クライアントが JOT で、JOT がもっと啓発したいんですよってズレ郎さんに頼んだ時に、ズレ郎さんがどういう提案するか？って感じというか。そうしたら、JOT の人がこう世の中に伝えるべきだ！みたいな提案をすと思うって、その感覚はあるのかな？って。

ズレ郎：何か語尾の調整みたいな話ですか？例えば、今のづらさんの案だと。

米村：これは JOT の定義をしているものにはなっていないってことだよな。USP に書くべきこと、何を言うべきかということはちよっとずれている。

づら：特徴とかを書けばいいってことですか？

米村：「JOT は一言で言うところこういう役割を担っています」ということを言うのが、商品規定ワードって言ったり、タグラインと言ったりしてる。その元になるのが USP だから。

づら：それって、「JOT のひと言で言うと…」にしなきゃいけないんですか？例えば、めっちゃいろんな魅力がある切り口を、ここの一つの魅力を尖らせて言いたいっていう時に、それだけを USP って言っちゃダメなんですか？

米村：そうじゃない。それが、今回コミュニケーションをしようとしている人にとって、一番 JOT の「良い」、「そのことが一番大事」ということを選ぶ。USP っていうのは、いっぱいあるんだよね。JOT のや  
ってることがいっぱいあるわけで。そこのどこにスポットライトというかっていうことを見つけるって  
いうこと。だから本人の意思が尊重されるっていうのは違うんじゃない？

づら：はい。そもそもこれ間違っちゃってる。すみません。

安全地帯：本人の意思が尊重されるのは、臓器移植というサービス。JOT がやってるサービスの 1 個だ  
から。

豚骨精神：私の理解は、例えばドラえもんだったら、ドラえもんが USP として、のび太は友達ですとか、  
21 世紀から来たネコ型ロボットですとか、四次元ポケット持ってますみたいな。それはドラえもん自体の  
説明じゃないですか。でも、今書いてあるのはどこでもドアみたいな、ドラえもんが持っている道具の特徴  
というか、USP を書いている気がする。みんな、私の例え分かった？

だら：何となく。

米村：分かるよ。

づら：ドラえもんで言うと、どこにでも行けるドアを差し出してくるんですってことですか？

豚骨精神：もしそれがこの子にとって…

米村：でも、どこにでも行けるドアを差し出してくれる猫が、ドラえもんのことを言い当てているわけじゃ  
ないよね。それはドラえもんのいろんなできることの一つを言ってるだけで。

づら：え、それってさっき言った魅力の一つを尖らせるという話とは違うんですか？

豚骨精神：魅力のひとつは、のび太と…

づら：魅力の一つを尖らせるのが、そのターゲットにとって一番だったら…

白湯：ドラえもんの丸いロボットという形がその人にとって一番刺さるのか、四次元ポケットっていう機能  
が一番刺さっているのかでいうと、四次元ポケットの方が刺さるから、それが USP になるよねってじゃな  
いか。

豚骨精神：あ、まあ、そうですね。そうそうそう。

白湯：で、四次元ポケットの中に入っているどこでもドアとか、タケコプターとかは、そこってすごいピンポイントだからそれではないよねって言う。

米村：づらさ、自分も一応プロなんだから、USP って何か？ってことは勉強しな。ちゃんと。で、USP って別に何かということはそんな難しい話じゃなくて。でも、今回の USP は何かとか、そのテーマごとにそこを言い当てるのが難しいわけ。今の話って、その手前の話だからさ。それは予習して勉強して理解すべきことだと思うよ。

づら：頑張ります。

だら：すみません、ターゲットはさっき言ったように、意思表示を知っていて後回しにしている人に確定でいいですか？

米村：そこが一番大きいと思うけどね。

だら：それは決定で、次にまた考えるっていうか。その人に対して何て言ったら後回しにせずにやれるか？っていう。

米村：全体の課題感としては、やっぱり日本って圧倒的にドナー提供の意思を表示している人が少ないです。結果、ドナー提供してほしいと登録している人たちでちゃんとそれを享受できて、自分の治療に役立てられている人が、まだまだ全く足りてませんっていう状況の中で、JOT としてどういうメッセージを発するべきかって言ったら、別に、意思を持って世の中のほとんどの人が登録を拒否しているわけではないということが分かったら、意思もなく、なんとなく後回しにしている人に対して働きかけていくのが、どうも、今やるべき、効果がありそうなことなんじゃないかという方向性で、どうメッセージのストラテジーを考えるとということ。

だら：もうひとついいですか？ さっきちらっといろんなストラテジーが見えて、ままだおるさんだっと思うんですけど、意思表示しないとやばいことになるよみたいな、そんな感じのニュアンスというか、恐怖訴求みたいなのがあった気がしたんですけど。

## 【ままだおるのストラテジー】

ままだおる

# 日本臓器移植ネットワークA案

## ターゲット

結婚・出産をむかえ、家族の将来を考え始める人

## ターゲットインサイト

自分が将来事故で何かあったときに残された家族に迷惑をかけたくない

## USP

臓器移植の有無を明示しておかないと自分が心拍停止・脳死した際に家族に大きな負担を課すことになってしまいます。

## プロポジション

新しい家族が増えるタイミングだからこそ、将来の万が一に備えて臓器移植の有無の提示を個人で行い、家族と話し合うことで、残された家族が葛藤することなくあなたの意志を尊重してくれます。

---

**ままだおる**：調べている中で、心肺停止とかいろんなことで意思表示をしなかったと。その時に家族に対してどうするかというところを聞かれると。それに対する家族に対する負荷とか、どうしたらいいかというところが、大体家族に対してすごい負荷がかかってしまうっていうのを見たときに、自分が意思表示をしていれば、残された家族に対する負荷っていうのは、ものすごく軽減するじゃないかなと思ったんですよね。

**モゴ**：僕もA案全く一緒です。

## 【モゴのストラテジー】

米村クラス課題 モゴA案

### ターゲット

ドナーカードにまだ登録しておらず、家族とも話し合ったことのない人

### インサイト

脳死に関するニュースや意思表示の機会（マイナンバーカードの取得時など）に接しても、家族に重いテーマの話をするとうたがられるので、きっかけがつかれない。

### USP（脳死判定を受けた際の状況）

実際の移植手術は、臓器提供について家族の同意を得る必要がある。

### プロポジション

脳死状態に陥るのは今の日常からは予測のできない事態ですが、ご家族と話し合っただナーカードに意思表示をすることは、大切な家族があなたの脳死という突然の悲劇に苦しむ中、重い判断をせざるを得ない時の支えとなります。

**豚骨精神**：私も同じです。けど別に脅迫的な表現はしていない。あ、脅迫的な表現にしています？

## 【豚骨精神のストラテジー】

### 豚骨精神 A案

- **ターゲット**
  - 運転免許保有者:約8,200万人のうち、意思表示していない残りの9割の人々
    - JOTの公開データ→免許証裏面やカードで意思表示している人は全体の1割程度(2020年代データ)
- **インサイト**
  - 自分の死について考えたくない。大事だけど嫌な気持ちになる。
- **USP**
  - 大事な家族の負担を軽減する。あなたの死と向き合う悲しみの中で二重に苦しませない。
- **プロポジション**
  - 意思表示は、残された人の重い決断を和らげます。あなたは大切な人のヒーローになれます。

だら : 強めな感じで書いてましたよね。

ままだおる : 強めな感じで書いたんですよ。それは覚えてて。脅迫的にしようと思ったわけではなかったんですけども、きっちりと残された家族のことを考えて、自分の意思をしっかりと表示する必要ってありますよねってことを表そうと思ったところですね。

だら : ありがとうございます。ストラテジーで恐怖を煽るみたいなことはアリなのか、そういうのじゃなく作った方がいいのかみたいなのはどうなんでしょうか。

米村 : じゃあ一回作ってみればいいんじゃない。どっちがいいか。

モゴ : 恐怖を煽るというのは、表現の問題？それこそ方向性の問題？

だら : 単純にそれが最後広告になった時に…

モゴ : 方向性だったらある意味あるんじゃないですか？それはもちろん、広告としては整えなきゃいけないものはあると思うんだけど、恐怖訴求が別に悪いかって言うと、だって待ってる人がいるんだし、待ってる人からしたら一刻も早くしてくれっていう。まったりとゆっくりやっている時間はない。

米村：ごめん、その恐怖訴求って、どういう意味合いで恐怖訴求って使ってる？

豚骨精神：ままだおるのやつ映してもらうこと可能ですか？

米村：どの辺にあったか？

### 【ままだおるのストラテジー再掲】

ままだおる

## 日本臓器移植ネットワークA案

ターゲット

結婚・出産をむかえ、家族の将来を考え始める人

ターゲットインサイト

自分が将来事故で何かあったときに残された家族に迷惑をかけたくない

USP

臓器移植の有無を明示しておかないと自分が心拍停止・脳死した際に家族に大きな負担を課すことになってしまいます。

プロポジション

新しい家族が増えるタイミングだからこそ、将来の万が一に備えて臓器移植の有無の提示を個人で行い、家族と話し合うことで、残された家族が葛藤することなくあなたの意志を尊重してくれます。

---

豚骨精神：家族に大きな負担を課すことになってしまう。

だら：確かにとは思いますが。

モゴ：僕、全然こんな感じです。

米村：これ、こういうのを恐怖訴求って言ってるの？

だら：はい。

米村：さっき言った USP、こういうことを書く場所じゃないよって話。づら分かる？まだ分かんないか。

づら：第三者になっちゃってるって感じですか？

米村：それが、日本臓器移植協会ですってことになっているかどうかってこと。なってないでしょう。

ままだおる：僕の書いてしまった USP は、JOT としての存在価値というところではなくて、一般的なこととして、こういうことも考えられるよねということになってるので、JOT として提供できるものが書かれてないなというところはここにあるなっていう。

米村：そうそう。JOT とは？というものにならないといけない。

ままだおる：悪い例として、ちょっと今。

だら：方向性として、怖がらせるようなことを言うのもありなのかな？とかっていうのは…

米村：これでも、俺よくわかんないんだけどさ、自分が意思表示しなかったばかりに、あの人どっちなんだろう？みたいなことを家族に負担をかけるって意味？

ままだおる：意思表示をしてなかったことで、どうするんですか？っていうところを聞かれることがあると。その中で、臓器提供をするかどうかってことを意思表示しなかった人が、その人がどう思ってたんだろうってことを残された家族が迷ってしまう。それに対する心理的な負荷が高いつついうようなところのデータを見た時に、それってただでさえ亡くなって大変な状況の中で、負荷をかけてしまうということは、避けた方がいいんじゃないかというところを思ったので、こういう風に書きました。

米村：俺、そこはちょっとよく分かってないんだけど、人が亡くなるとさ、臓器移植をしますか？って、そんな誰でも聞かれちゃうわけ？

モゴ：いや、僕も前提としてままだおるさんと全く同じなんですけども、臓器移植は僕も現実には分からなかったんですけど、脳死判定を医師側がしなくてははいけないって言って。で、脳死になったんですねってなった時に JOT の人が来て、脳死になってますけど、移植しますかしませんか？っていうのが家族に聞くと

米村：いや、だからそれはドナー登録してたらでしょう。登録ってどうか、自分は臓器提供しますよって言うたらでしょう。

ズレ郎：書いてなくても。

モゴ：それは改正臓器移植法で…

米村：書いてなくても！？

モゴ：脳死の可能性がある場合はっていう。で、医師側もそれを負担があるからやらないパターンもある。さっき一瞬言った一万人見込みみたいなのはそれです。

米村：それってどうやって分かる？

モゴ：脳死判定のマニュアルがあって、結構何パターンにも及ぶんですけども、それをやる。

米村：脳死で亡くなる人って特殊な例なの？癌で亡くなる人、老衰で亡くなる人、いろんな病気で亡くなる人と違うの？

モゴ：おそらく違うんじゃないかと。

米村：交通事故とかで、身体は元気ピンピンだけど、脳挫傷で脳死しましたみたいな…

だら：心臓に酸素とか何かしら送り続けないと死んじゃう人なんで、癌とかそのまま死んじゃう人とはまた全然違うっていうか。

モゴ：いわゆる植物状態と脳死の差があって、植物状態っていうのは生き返る可能性があるんですよ。

米村：なんか図が書いてあったね。脳幹のところはまだ生きてて、周りが死んでる。

モゴ：ただ、脳死は一応、医学的には植物状態みたいに戻る見込みがないっていう。それを前提として判定しなきゃいけないみたいなことだと思う。僕もシステムとしてはちょっと完全には分かっていないですが。

米村：あ、じゃあ別に自分で臓器提供しますよって意思表示していなくても、脳死っていう死を迎えるような人がいたら、医者から連絡を受けるの？

モゴ：ただ、ちょっとそこが分からなくて。臓器提供のいくつかのソースを見ていて、改正臓器移植みたくもありつつ、そもそも臓器提供の意思表示をしてないと脳死判定をしないみたいな話があって、そうすると米さんの話も合ってる。

安全地帯：あ、でも、改正法施行後は1,000件分のうち300件が家族の申し出で、700件が意思表示をしていた。

モゴ：なるほど。じゃあ、やっぱりそうかもしれないって言うので調べますか？みたいなことなんですか？

米村：そういうのって医者が話してくれるのかな？これ一応、臓器提供できる状態ですけど、どうしますか？的な。

豚骨精神：患者にですか？JOTにですか？

米村：患者の家族に対して、医者とかが。それで家族がいいって言ったらJOTに連絡してドナーになりますけど、とかってこと？

モゴ：順番はちょっと分からない。ただ、今問題なのが、お医者さんの側も脳死判定をするのを避けるという問題がある。診療補助が出ないとかいくつか理由があるんですけども、そのうちの1つにお医者さんの心理的な負担があるから、説明するのはあり得るのかもしれないですね。

米村：いや、病気で亡くなる人はいっぱいいるけど、臓器移植しますか？って聞かれたって話は聞いたことないから、普通の亡くなり方とどう違ったときにこういう動きになるのかな？

安全地帯：死因の約1%が脳死っていうのは出てきますね。

モゴ：年間1万人ぐらいが恐れがあるというのがあって、ただ、実際判定を受けているのが100何人っていう。だから実は隠れ脳死がいるんじゃないかみたいなのが、もう1個の、登録者数増えないのとはまた別の問題。

安全地帯：本当は脳死なんだけど、お医者さんが脳死と言わないからというパターンがあるということ。

モゴ：というのが読売新聞のさっき一瞬出てきた白湯さんのリンクで出てきたのがその記事です。

ズレ郎：それぐらい判断が難しいんですか？

モゴ：そこの詳しいところまでは分かんないんですけど、読売新聞の記事に書いてあったのは、いろんな意味でお医者さん側の負担も大きいし、あと病院も医療体制が整っているところは900あるんだけど、本当にあるのは450しかないとか、まあ整っていないらしいですよ。そっちの問題もある。

米村：まあ、そこはそんなに。

モゴ：本質的な問題ではないですね。

米村：どちらかという、要は1%になる可能性があります、ということだよ。

モゴ：戻すとそうですね、僕もままだおるさんと同じ案ですね。ちなみに何回も聞かすらしいんですよ、JOTの人は。一回本人が○をしていて、家族も○をしていても、「やっぱり…」っていうことが心理的に絶対あって、引きずるのはあるみたいだから何回も聞くみたいなことを話しているんですね。それぐらい重いハードルがある。

豚骨精神：そこに対して自分が意思表示していると、本人の意思だからって思いやすいけど、していないと家族が永遠に迷うようになってから、そういう嫌だよっていうことを言いたかったっていうことですよ。

モゴ：逆に×でも、例えばテレビのニュースを見て「待っている人がいます」という報道を見たら、「やっぱりあの時あの判断をして良かったのか？」みたいになると思うんですよ。だから、やっぱり「本人が×してたんだから」みたいなのは、残された人にとって大事なんじゃないかという。

米村：ということで予習が今日終わりましたので、もう一回ストラテジーを考えてきて。

豚骨精神：はい。

米村：よく一番最初にこういう課題を提示したね。

白湯：言っていましたよね。自分で出したけど、ちょっと…って。

豚骨精神：なんか、爪痕を残したくて。

安全地帯：それこそご家族に…みたいな話じゃなくて？

豚骨精神：いや違う。

米村：でもお母さんが保健の先生っていう、割と身近にあったってこと？そういう感じが。

豚骨精神：そうですね。だからめちゃくちゃありますね。

ままだおる：でも、ありがたいです。このおかげで嫁とどういう風にするかという話のできたので。

モゴ：それはあるよね。